













社外での感染予防が課題に

日系企業にコロナ対策を聞く

ブラジルで事業を行う日系企業の「新型コロナウイルス感染防止対策」の第4回目は、三井化学ブラジルの渡辺弘樹社長に、自社とブラジル日本商工会議所・化学工業部会の会員企業での取組等について話を聞いた。

基幹電子部品の現地生産化に期待

三井化学ブラジルは、農薬(殺虫剤)と自動車と食品包装材料向けの改質剤を販売している。従業員数は9人。事務所にアルコールを常備して、常時消毒、出社時は検温、マスク着用、会議室は各種化学製品を生産、販売



渡辺弘樹社長



新型コロナウイルス感染防止対策



コロナ対策後の東洋インキ・ブラジルの食堂風景



パッケージのイメージ(東洋インキ・ブラジル提供)



拡大する大豆農園

日本政府支援事業 ◆サンパウロ日伯援護協会 ◆コロナ感染防止キャンペーン

新型コロナウイルスの影響で、外食の機会が減り、代わりに自宅で過ごす機会が増え、パッケージの製造業とい

食品用プラスチックパッケージ(容器)の製造、販売 スターパック社

コロナ禍で売上げ増加 機械増やしてフル稼働

ビジネスチャンスとして期待したいのが、半導体、液晶ディスプレイ、太陽電池等の「産業のコモ」

スターパック社 STARPACK 西川氏は兄弟で1984年にスターパックの前身となるSunnyvale社を創業し、2002年にスターパックとして独立。

西川氏は、パンデミック当初から以前と変わらぬ操業してきた聖州イタクアケセツバにある自社製造ラインのために

「基幹電子部品の材料の検討が必要にもなる。渡辺氏がコロナ禍の影響を見て、私見で新しい

と述べる渡辺氏。現在、半導体をはじめ、液晶や太陽電池等、最終製品の生産技術で世界の電子産業をリードしている

本記事は、日本政府支援事業に基づき、サンパウロ日伯援護協会が実施している「コロナ感染防止キャンペーン」の一環です。

だが、パンデミックに入ってから約4カ月は、市内の事務所への出勤は原則禁止し、事務職はリモートワークを実施し

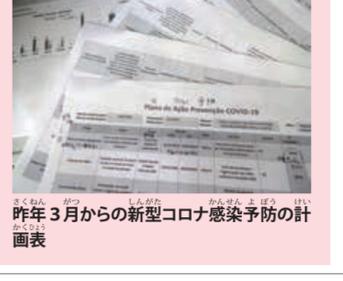
「お客様に商品の値上げを伝えると、値上げが前日には注文が殺到します」と話す西川氏。最近特に売れ行きが

伸びているのは、プラスチックのふたを必要としない、コストの安いシートタイプのフタの商品であるという。常に時代の流れを見ながら顧客の声を聞き、新商品を開発してきた長年の積み重ねが、偶然今のコロナの波に乗った

スターパック社の感染対策



社員に配布されている自社製の容器に詰められた衛生キット



昨年3月からの新型コロナウイルス予防の計画表